



内閣府（防災担当）

相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動 検討会（第3回）議事概要について

1. 検討会の概要

日 時：平成28年7月1日（金） 10：00～12：00

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：平田座長、入倉委員、北村委員、小鹿委員、福和委員、古村委員、
翠川委員、三宅委員、山崎委員、山中委員
防災科学技術研究所 先名主幹研究員

2. 議事概要

防災科学技術研究所 先名主幹研究員、三宅委員による話題提供の後、相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動について、検討の進め方や地震動の検討手法について議論を行った。概要は、以下のとおりである。

- 文部科学省では、浅部・深部統合地盤モデルの構築作業が進められている。長周期地震動の推計への利用にあたっては、本検討会でも内容の点検を行う。
- 米国南カリフォルニア地震センターの震源モデル(SCEC BBPのGPモデル)は、すべり量に応じたゆらぎを各パラメータに導入し、広帯域で地震波形を再現するものであるが、主な検証は内陸地震でなされていることに留意。
- 地盤の非線形解析に使用するモデルについて、HDモデルは強震動が入った場合に減衰が大きくなり過ぎることから、本検討会における長周期地震動の推計ではR0モデルを使うべきではないか。
- 長周期地震動の推計に用いる震源時間関数については、動力学的に十分検証されているものを採用すべき。
- 有限要素法は地盤構造を反映しやすいメリットがあるが、長周期地震動の推計に差分法を用いるか、有限要素法を用いるかについては、実際の観測記録を十分説明できることを確認した上で判断する必要がある。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-6820